

5. 斑点米を防止するために草刈り・大麦跡の管理および適正な防除を実施

- 今年も、気温が高く推移しており、斑点米カメムシ類が増殖しやすい気象経過となっています。斑点米の発生を防止するには、斑点米カメムシ類の生育密度を低くすることが重要です。地域全体で以下の対策を行いましょう。

対策1:カメムシが発生しにくい環境づくり

畦畔の一斉草刈りで、カメムシを発生させない。

- 1) 水田畦畔や周辺雑草地の草刈りを実施しましょう。刈り取った草は用水に流さないようにしましょう。草刈りで道路を汚したらすみやかに片付けましょう。

草刈り運動期間	7月1日(土)～10日(月)
県下一斉草刈日	7月1日(土)～2日(日)



- 2) 大麦収穫後のほ場は放置せず、大豆、キャベツ、ハトムギ、クロタリヤ等の作物を栽培して有効に活用しましょう。なお、大麦収穫後からキャベツ等の栽培開始までに日数を要する場合は、雑草が繁茂しないように管理してください。

対策2:てんたかく圃場の適期・適正な防除の実施

- 1) 穂揃期(1回目)と傾穂期(2回目)の2回防除を行いましょう。(下表、下図参照)
- 2) 粉剤や液剤は穂や畦畔にもしっかりとかかるようにしましょう。

<防除時期の具体的な日程は次号に掲載します>

	7月中旬頃(穂揃期:1回目)	7月下旬頃(傾穂期:2回目)
[粉剤]	[キラップ粉剤DL] 4kg/10a	[スタークル粉剤DL] 3kg/10a
<<液剤>>	<<キラップフロアブル>> 75ml/10a(2000倍)	<<スタークル液剤10>> 150ml/10a(1000倍)

<出穂直前><出穂>

<穂揃期> ←約7日間→ <傾穂期>

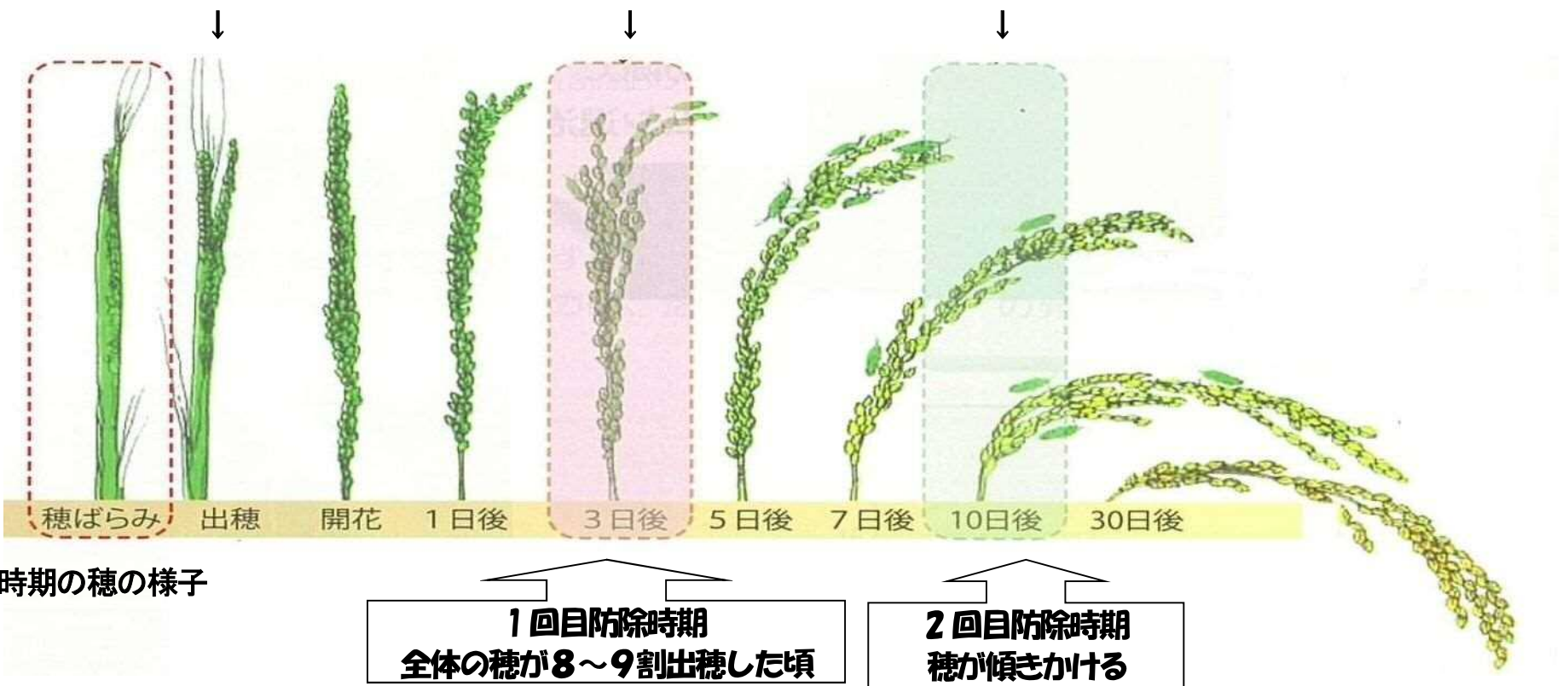


図 防除時期の穂の様子

6. クサネムの防除 ～クサネム種子の混入に注意しましょう～

- クサネムは刈取りの邪魔になる上、種子が出荷製品に混入すると異物混入としてクレームの対象となります。良質米産地としての信頼を得るために、混入防止に努めましょう。

- クサネムの種子は色彩選別機でも全て除去するのは困難なため、収穫前に抜き取ってください。
- 後期除草剤の散布は収穫前日等の散布時期がありますので、薬剤ラベルを確認の上、適切に散布して下さい！

